

探偵未経験者が明かす、他人に言えない尾行記録

私立探偵を自称すオレは、たいたいま研修中の身の上。探偵になるための特訓を連日あつちり受けている。今日はいきなり都心部の尾行研修だ。聞くところによると、電車の乗り換えを伴った尾行はとて難しいとか。はたして、無事こなせるかどうか、でも女房も子供もいるから、この研修を受けなければ、必ず探偵になって稼ぎを出さなければ、家族3人路頭に迷ってしまう。具合いを入れてやるしかない。

「じゃ、始めようか」

尾行対象(マルタイ)は講師の中村氏と幹部A氏の2人。まず、事務所を出た2人は最寄り駅の地下鉄丸の内線本郷三丁目駅へ向かった。

「3時21分、マルタイは池袋方面のホーム中程に同僚Aと立つ。服装はマルタイが青のポロシャツにジーンズ。Aは黒の背広」

オレは2人の姿を見失わないようにして、素早く手のひらに隠し持った小型ICレコーダーにマルタイの情報を小声で吹き込んだ。後々、報告書を書くときに必要なのだ。だから、簡潔かつ詳しく、こまめに情報を記録しなければならぬ。マルタイが地下鉄に乗り込んだ。車両内はそれほど混雑していない。オレはマルタイが降り込んだ隣のドアから同じ車両へと降り込んだ。そして、時にはさりげなく直に、時にはガラスに反射したマルタイの姿を観察し続けた。できる限り見張っていないと、電車とはいえ、何をされるかわからないからだ。途中、マルタイは新大塚駅で車両を降りる素振りを見せる。オレは発車ギリギリまで動かずに粘った。すぐに降りなくてよかった。マルタイは降りずにそのまま乗り続けたからだ。

「(二)で先に探偵が車両を降りたら、挙動不審ですぐに尾行がバレしてしまったはず。電車の中では少しの不審な行動も尾行の余取りになる。(中村)」

マルタイは池袋駅で降り、サンシャインシティ方面へ向かう。オレは10mほど間をあけて、つかず離れず尾行を続ける。マルタイは東急ハンス手前のゲートムセンターへ入った。オレは別の入口からゲートムセンターへ、なんとこの入口からマルタイの入った場所へはすぐに行けない。10台ほど並ぶゲートムの壁が行く手をさえぎっていたのだ。

「ヤバイ止」

すぐに店の中を迂回して、マルタイの入った付近へ向かった。だが、そこにはもうマルタイの姿はない。消えちゃった！オレは慌てて外へ出た。中に入れないで外へ出たはず、マルタイの進路を予想しながら急いでサンシャイン60の入口あたりへ。ここからマルタイはサンシャインへ入っていったのか、それとも別の店へ向かったのか、オレは目をこらしてあたりを見回した。しかしきよさきよさきぎてはいけない。あくまで一般人にとけ込まなければならぬ。いたっ！」

マルタイはなんと東急ハンスの1階のエスカレーターに乗り込むところだった。Aも一緒だ。オレは見失うまいと小走りして追いかけた。焦って飛び降り、知らぬふりをして同じ階で降りる。

「実際には同じ階でも見失うのは致命的。もし本番なら確実に尾行は失敗していた。満員電車やかなり混雑している場所での尾行はできるだけ密着しての方がいい。普通に振る舞えば尾行はバレない。ただ、普通に振る舞うというところが一番難しいのだ。(中村)」

東急ハンスをさんざん歩き回っていたが、オレは注意深く目を離さずに、物陰から動きをつかろう。どんな状況でも何を手に取っていたかを知ると、ICレコーダーに詳細に記録。

ハンスを出ると、マルタイは喫茶店へ入る。オレは素早く他の出入口がないことを確認すると、家を覗いて中をうかがった。マルタイが奥の席に座ってお茶を飲んでるのが見える。ここで中に入らなへきだろうか。でも迷った。ヒマはなくなるのを見張ることにした。しかし、マルタイは店内へ入り、コーヒーを店頭に注文してマルタイの動きをうかがった。マルタイはまだ席にいた。注文したコーヒー

満員電車、繁華街、喫茶店…気づかれたら即終了の最難研修を果たして突破できるか!?



はデイクアウトにして、外で再び張り込みを始める。

「マルタイが喫茶店へ入った。必ず探偵も店内へ入り、誰と会うかなどチェックするのが原則。今回も入口付近こそ混んでいたが奥は空いていたので入るべき。これは確実失敗。ただ、後で入店したときにデイクアウトにとめたのは正解。その時にマルタイが店を出るところだった。見失ってしまったらどうしよう。(中村)」

喫茶店を出たマルタイは再び池袋駅へ。途中、前方へ向かって歩いてきたマルタイが突然リターンしてオレの方へ戻ってきたが、オレは顔色を変えずにそのまますれ違っただけだった。そして、通り過ぎた後、オレは顔を振り返って再び尾行を開始した。

「ここで自分もあわてて歩く方向を変えたりしたら、一発で尾行は露見する。都心の雑踏で尾行がバレたら、まず尾行を継続・成功させるのは困難。(中村)」

マルタイはその後、いきなりJ.Rの改札をくぐった。プリペイドカードのICカードを使ったようだ。オレもイオカードを使って改札をくぐろうとしたら、ゲッターさんと手持ちのイオカードの現金が50円のみ、あわてて切符を買ってマルタイを追ったが、万事休す。すでに山手線外回りの電車は出発した後だった。

「実際とは異なり、研修ではわざと怪しい動きをする。あえて難題をふっかけて失敗させて教える。むのむのなのだ。駅構内の造りや路線図、支払い方法などを事前に頭に叩き込んでおくのは基本中の基本。(中村)」

ちなみに研修を終えてほどなく、実際に単独での尾行・張り込みの初仕事を3日間行った。もちろん、さつちり成功させたのは言うまでもない。現在、無事探偵職業を始めたオレ。仕事も順調で、別れさせ仕事などの難しい仕事を請け負い成功させている。その話は別の機会にゆずることにしよう。

探偵になるのは、そう難しいことではない、と考えるのは早計。尾行ひとつとっても、驚くほど緻密な行動を要求されるのだ。

ベテランでも難しい 都会の尾行術

通常はクライアントの予算の都合で、探偵は一人で尾行するのが普通。このため地下鉄や鉄道、バスを乗り換えながら後を尾ける都心での混雑した場所での尾行はとて難しい。気づかれると簡単にまくことができる環境であるうえに、ラッシュアワーの時間帯にはちょっと目を離しただけで見失う危険がある。空いている時は間の電車車両から見張り、混んだときはマルタイにぴったり張り付くなど臨機応変の対応が必要となる。

中村賢
日本調査情報センター(代表) 03-5804-0771

登場者プロフィール

●オレ(白比壽世)23歳
調査業をやめてあえて探偵という厳しい道へ進むことを選んだ。150万円のコースを選ぶ。妻子がいるので、なんとしても成功させなければいけない。ガタイがよいので、体力のいるような仕事が得意。現在は「日本調査情報センター(東京・多摩事務所)」を開設して自力で稼いでいる。

URL: <http://members.fcom.home.ne.jp/fricoms/index.htm>
TEL: 042624-5881-1111
24時間年中無休

●マルタイ(中村)
一様、日本調査情報センター代表。このほど私立探偵の養成プログラムを開発。探偵業務の急増から、プログラチャイス事務所の専業を始める。総合探偵事務所コースで150万円、ジョイント経営コースで300万円。探偵術だけでなく、経営術やサポートも行っている。費用は探偵事務所開設に必要な自営開業のアイテムなど一式も無料。自ら研修も立ちあげた。

●マルタイ(A)
一様、日本調査情報センター本部スタッフ。名前や経歴は秘密というところだが、かつて大手探偵事務所所属していたこともあったベテラン探偵。

取材・文/石川瀧 イラスト/村田らび